

天童市の県青年の家がコーディネートするボランティアサークル「nico こえ」（菊池柚香代表）が9日、小児がん治療への支援を目的とした「山形レモ

ネードスタンドプロジェクト」を始動させた。レモネード販売を通して支援金を集める取り組みで、県内の小児がん患者に、年内に贈呈することを目指す。

# 一杯から始まる命の輪



山形レモネードスタンドプロジェクトを始動させた「nico こえ」のメンバーら

＝天童市・県青年の家

レモネードスタンド活動は全国的に展開されているが、本県ではほとんど認知されておらず、子どもの死因上位である小児がんへの支援も確立されていない。こうした状況が実現した。

## 「レモネードスタンド」始動

今後、県内のボランティアサークルや学校などと連携を図りながら、各地でレモネード販売を行う。レモン果汁やサイダーなどで、自分たちで作って売る方法と、ペットボトル入りのレモネードを売る方法の二通りを想定しており、1杯あるいは1本当たり約70円の支援金を得る仕組みとする。

青年の家で開かれたキックオフミーティングで、プロジェクトリーダーの平田さんが「小児がんで苦しむ子どもたちを一人でも減らすことができるよう、支援の輪を広げていきたい」と意気込みを語った。

同サークルは地域貢献活動を目的に2021年に発足し、村山地域を中心に高校生や大学生計19人が参加している。名称の「nico」にはニコニコ笑顔が増えるように、「こえ」には地域や世代の垣根を越えたいとの願いが込められている。  
(落合慶)